博士課程用（甲）

中　村　　文　彦　氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題　目　　Impact of Improvement of Sleep Disturbance on Symptoms and Quality of Life in Patients with Functional Dyspepsia

（機能性ディスペプシアにおける症状およびQOLに及ぼす睡眠障害の改善の影響）

雑誌名：BMC gastroenterology，第21巻：78頁，2021年
著者名　Fumihiko Nakamura, Shiko Kuribayashi, Fumio Tanaka, Noriyuki Kawami, Yasuhiro Fujiwara, Katsuhiko Iwakiri, Motoyasu Kusano, Toshio Uraoka.

論文の要旨及び判定理由

機能性ディスペプシア(FD)はしばしば睡眠障害を合併することが知られているが，睡眠障害の改善が本疾患の症状の推移にどのような影響を与えるかに関しては十分に明らかとなっていない．一方で，逆流性食道炎(GERD)や過敏性腸症候群(IBS)に加えて，本疾患に関してもメラトニンが消化器症状の改善に寄与することが示唆されている．しかしながら，本疾患における消化器症状と睡眠障害の関連性に関して，その他の睡眠剤の導入による検討報告はされていないのが現状である．
中村らは，FDにおける消化器症状への睡眠障害の影響，更には睡眠剤を導入することによる消化器症状への影響を検証することを目的に，これらに関する多施設共同前向き観察研究を計画した．2018年12月から2019年7月までの間で，睡眠障害を伴うFDで睡眠剤を導入する方針となった20例を前向きに登録した．これらの症例に対して，睡眠剤導入前と導入4週後に睡眠症状，消化器症状，およびQOLに関するアンケート調査を行った．睡眠症状の評価に対しては，ピッツバーグ睡眠質問票（PSQI)，Epworth Sleepiness Scale（ESS)，アテネ不眠尺度（AIS)を用いた．消化器症状の評価に対しては，改訂Fスケール質問票（mFSSG)，Gastrointestinal Symptom Rating Scale（GSRS)，日本語版 Patient Assessment of Constipation Quality of Life（JPAQ-QOL)を用いた．またQOL評価に関しては，Short-Form 36-Item Health Survey（SF-36)を用いた．
20例のうち，3例が研究同意後に眠剤服用を拒否され，1例は眠剤服用に伴う過眠を来たしたため，これら計4例が本研究から脱落し，残りの16例がプロトコールを完遂した．導入された眠剤は，ゾルピデム，スボレキサント，エスゾピクロンが各々6例，1例，9例であった．これらの薬剤介入に伴い，睡眠関連質問票であるPSQI，ESSおよびAISのスコア中央値は有意な改善を示した．消化器症状を反映したmGSSGやGSRS，JPAC-QOLの合計スコアや各サブスケールにおけるスコアの中央値も有意な改善を示した．これらの改善に伴って，SF-36の合計スコアやサブスケールの1つである疼痛項目のスコア中央値も有意な改善を示した．
本論文は，睡眠障害を併存したFDにおいて，睡眠障害に対する睡眠剤の導入がFD症状やQOLの改善へ寄与することを明らかにした．これらの結果は，今後の医学の発展に寄与するものと考えられ，博士(医学)の学位に値するものと判定した．

令和3年3月18日

審査委員

主査　　群馬大学教授（医学系研究科）
泌尿器科学分野担任　　鈴木　和浩　　印

副査　　群馬大学教授（医学系研究科）
消化管外科学分野担任　　佐伯　浩司　　印

副査　　群馬大学教授（医学系研究科）
神経精神医学分野担任　　福田　正人　　印

参考論文　なし